

609) 夜桜見物

やっと桜が満開になってきた。バッチちゃんが夜桜見物に行こうというので我輩もお供をすることにした。この町の桜は全国的にもかなり有名で、我輩も一度は見たいと思っていたからである。駐車場はたくさんあるものの、桜の咲いている場所も極めて多く、庭園や、武家屋敷や、旧跡もあちこちにあるから、駐車場もまたすこぶる多いというわけである。しかももう6時を過ぎていたので田舎町の公園は人影もまばらである。我輩は駐車場の一番隅に車を止めて、といっても他には止まっている車もない。バッチちゃんと鼻歌交じりで、上機嫌で歩き始めた。ここからは川沿いに立派な桜並木が続き、途中には史跡がいくつか立ち並び往復4キロばかりの道のりである。脚力に不安があったものの、何とかこの行程を無事にこなして戻ってみると、もう一台車が止まっており、誰かクルマに乗っているらしく、ヘッドライトが夜桜を美しく照らし出している。我らの他にも風流人が居たかと感心しつつ、こりゃまた絶景だわいとヘッドライトに照らし出された桜を、気持ちよく観賞しながら、駐車場まで戻ってみると、我輩の車がなぜかない。よくよく探してみると、ヘッドライトの点いた車こそ、我輩が乗ってきたクルマだったのである。すぐにライトをOFFにして、エンジンをかけてみると意外と一発でかかった。かれこれ1時間、バッテリーは頑張ってくれて、我らの帰りを照らしてくれていたのだから感謝！感謝！でありました。ハイ！。